

人の動きと健康ビッグデータによる要介護に至る要因の分析

～すこやか環境づくり共創システム～

1:看護学部、2:工学研究科

○講師 ^{なかにし えいこ} 中西永子¹、准教授 ^{いし い み ゆ き} 石井美由紀¹、准教授 ^{もりもと まさかず} 森本雅和²、
准教授 ^{に い まなぶ} 新居 学²、教授 ^{さかした れ い こ} 坂下玲子¹

キーワード

健康診査結果分析, 保健指導, AI, 重症化予防,
行動変容, 人流データ



研究概要

本研究は、兵庫県で「健康で過ごせる期間」と「寿命」との差が大きく、介護が必要な期間が長いという課題に注目し、その背景を地域ごとに明らかにしようとしたものである。明石市を対象に、介護保険、健診、医療費、地域統計、外出や徒歩の状況を示すデータを組み合わせ、小学校区ごとに健康課題を見える化した。さらに、市の保健師や地域包括支援センター職員と話し合い、データの結果を現場の実感と照らし合わせて解釈した。その結果、要介護や認知症、脳血管疾患、骨折などの地域差には、病気の多さだけでなく、歩く機会、外出のしやすさ、地形、地域活動への参加機会などが関係している可能性が示された。

よく歩く地域では、脳梗塞や創傷が少ない傾向



平均標高



コミュニティ・センター利用



地域環境は、認知症の地域差を考える手掛かりに

アピールポイント

蓄積された健康データを活用し、地域住民や従業員に届く保健活動の実現を目指している。(特願第 7782898 号:健康診断レポート作成システム、健康診断レポート作成方法)



PDCA サイクルが回ります